

1. 本園の教育目標
- ・一人一人の子どもたちは、神の恵みのもとに愛されて育ち喜びをもって生きる
 - ・恵まれた自然の中であそびや様々な体験を通して、自分で考え自ら行動する力を育む

2. 本年度の重点目標
- ・「安心して」過ごせる環境作り
 - ・環境を活かし伸びやかな心身の発達を促す
 - ・保護者への発信力向上

3. 評価項目の達成状況及び取組状況

評価 A(4.0-3.5)：達成している B(3.4-2.5)：一部達成している C(2.4-1.5)：一部改善を要する D(1.4-0)：改善を要する

重点的に 取り組む 目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果					総括 評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標			成果 評価
「環境作り」 「安心して」 過ごせる	・幼児一人一人が自己 発揮できる 指導	4	幼児一人ひとりの成長・発達を理解し、 思いに寄り添えるよう努める。	3.7	4	「安心して」自分らしく過ごす ことができる。	3.7	A	・幼児一人一人に寄り添う保育を目指し全 職員が努力してきた。が、感性の違いや経 験の差があり、今後一層の努力が必要である。 職員間で刺激を受け合い、伝え合い、 学び合う環境作りをしたい。 ・個別理解のための視覚教材の工夫、クール ダウンや一人になり集中できる場所の提 供など、工夫できたクラスもある。 ・幼児は自分なりの表現で自己発揮できて おり、甘えや怒りの感情表出も「安心して」 表せている。
		3	丁寧な保育計画の作成・準備に努め、 一人ひとりに合った対応力を高める。		3	好きな遊び・活動に、夢中で取り 組む。			
		2	幼児理解を深め、一人ひとりに合った 保育計画・環境を考える。		2	好きな遊び・活動がしたいと喜ん で登園する。			
		1	幼児一人ひとりをよく観察する。		1	好きな遊び・活動を見つけること			
環境発達 を伸ばす 心身の	・ねらいを 持った戸外 遊びの充実	4	環境を活かし、ねらいを持った 戸外遊びが充実する。	3.3	4	環境として置かれたものから好きな 遊びを見つけ、喜んで遊ぶ。	4	A	・戸外で伸び伸びと遊ぶ姿をよく目にした。発達 段階に合わせて遊具で遊ぶ時間を作るなどの取り 組みもあり、その姿を見た他クラスの子供達が刺 激を受け興味を持って挑戦する姿もあった。 ・木の実、小動物との触れ合いや気候に応じた体 験など、様々な自然環境に囲まれ成長する姿が見 られた。 ・ねらいをもって戸外遊びに取り組むが、ねらい の持ち方や成果の達成度に迷いがあり評価が難し かった。 ・発達にあった運動遊びの提供、固定遊具や園の 環境を利用した活動から、個人の発達状況を把握 するなど今後も取り組みたい。
		3	観察した幼児の姿から、心身の発達に 沿った活動を計画する。		3	心身を開放し成長・発達に沿った 遊びに参加できるようになる。			
		2	遊びの様子や心身の発達をよく観察する。		2	戸外遊びに期待を持ち、 楽しめるようになる。			
		1	積極的に戸外遊びを提供する。		1	戸外遊びに参加する。			

保護発 者信 へ力 の向 上	・丁寧な情報 発信・伝わる おたよりの 工夫	1 号外として、より丁寧に詳しく園での 様子を知らせる工夫ができるようになる。	3.7	1 保護者の肯定的、協力的な姿が 多く見られるようになった。	3.7	A	・号外を出すことに対して、保育者の意識や成果 の差が大きかった。今後は保育者自身の「楽 しい・伝えたい」という思いからの保育実 践や子どもを主体とした発信したくなる保 育を目指す。また、子どもの成長発達での 課題を今後の成長に繋げるため、保護者に 分かりやすく伝える工夫を考えていく。 ・毎週家庭ごとにやり取りしている連絡帳への丁 寧な取り組みが一定の評価としてあるため今後も 続けつつ、園全体やクラス全体に神愛幼稚園の保 育を知ってもらえるような情報発信を意識する。 ・手紙をよく読まれていないと感じる保護者も多 いため、内容を工夫していく必要性を感じた。
		1 園やクラス目標・取り組んでいる 課題が「伝わる」情報発信ができる。		1 保護者から、感想や質問、期待が 寄せられるようになった。			
		1 幼児の今の状態が「伝わる」情報発信 を意識する。		1 「伝わる」情報発信を意識できる ようになった。			
		1 月に一回クラスだよりを配布する。		1 月に一回クラスだよりの配布が できた。			

4. 本年度の評価・反省及び次年度の課題

- ・今年度は特に、幼児一人一人に寄り添い「安心して」過ごせる信頼関係の形成。また、成長発達に応じた活動や環境の提供に取り組んだ。様々な要因による心理的变化や行動変化を全職員で共通認識し、必要な援助や関わり方を話し合い寄り添う努力を重ねてきた。しかし、経験の差や感性の違いによる対応の差があり、取り組みが十分でないとの評価もあったため、さらに意識を高め合える環境作りに努めたい。
- ・環境を活かした保育では、単に自然環境だけでなく心身の発達に注目し成長に繋がる保育を提供できるようにした。成長発達に応じた活動や環境の提供から個々の成長が見られると同時に、自ら好きな遊びを見つけ伸び伸びと自信をもって遊ぶ姿が多く見られるようになった。一方、保育者のねらいの持ち方が不十分であったため課題として次年度も意識して取り組みたい。
- ・保護者への発信力向上には、保育者自身の保育への取り組み方に大きな課題があると分かった。保育者自身が保育を「楽しい」と感じ、幼児と取り組んだ活動は、保護者にも喜んでもらえたようだった。このことから、保育者自身の保育へ向き合う意識改革に努めること。また、経験の差を互いに補い合い、全ての職員が技術向上できる保育環境を目指したい。
- ・次年度はクラス運営・特別支援に関してアドバイザーに週1回入っていただくため、日常の課題や改善点を具体化し保育力の底上げに努めたい。

5. 学校関係者評価委員による評価及び意見

- ・保育への評価は高く、保護者も安心してお子様を預けられているのではないかと思います。園としてのビジョンも明確であり、より良い保育のための意識向上を目指しているため、そのことが子どもたちや職員、保護者に伝わっていくと良い。
- ・不審者対応や安全確保について心配する声があるが、まず、取り組んでいる内容を保護者に伝える努力をしてみると良い。きめ細やかに伝えることでより安心してお子様を預けることができるのではないかと。また、不安と感じる要望には今後も出来る限りの改善をして対応していくと良いと思う。
- ・園児一人ひとりが輝く環境作りを日々意識して取り組み、その積み重ねを行事などで発表し保護者に見ていただくなど、子どもも保護者も先生も「幸せ」な保育環境が作られていると思う。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員
